



文 俊美さん  
南方中学校出身

あの頃の / これからの /  
ぼくとわたしの

中学生の頃に、抱いた夢。あれから  
あの頃夢見た将来に近付いた新成

高校から仙台で寮生活だったので、登米市に来たのも久しぶり。新しい道路やお店などができ、いろいろ変わっていて驚きました。  
将来の夢は、中学生の時と変わらずキャビンアテンダント。20歳になり、将来が夢ではなく現実味を帯びてきました。今は、東北学院大学に通いながら、夢に向かって勉強に励んでいます。  
大学の授業のほかにも週に6日、部活動で剣道をしているため、時間が取れませんが、いつか海外を旅して見識を広めたいです。  
これからは、自分の意思だけでなく周りの意見も取り入れていくことが大事だと感じています。周りや後先をしっかり考えて行動できる両親や姉のような大人になりたいです。

**笑顔のあふれる  
やさしいキャビンアテンダントに**

俊美さんは部活動では吹奏楽部に所属。ユーフォニアムという金管楽器を担当しています。そんな俊美さんの将来の夢は、シンガポール航空のキャビンアテンダントになることです。韓国に住む祖父母に会うため飛行機に乗る機会が多かった俊美さん。機内で働くキャビンアテンダントのいつも笑顔で接し

てくれる姿に、とても感動したそうです。両親の影響もあり日本語と韓国語を話すことができる俊美さん。より多くの人とコミュニケーションを取りたいと、CDや本で英会話の習得にも励んでいます。「将来はキャビンアテンダントを育成・指導する人になりたい」と笑顔で話していました。

南方中 1年  
(広報とめ2012.12.1号から)



夢 Dream

数年が経ち、20歳を迎えた新成人。  
人に、現在やこれからについて聞きました。



横山 隼太さん  
東和中学校出身

**県職員になって、復興の力に**

「夢は、県職員になること」。静かな口調で話す隼太さんの言葉に迷いはありません。現在中学1年生の隼太さんの夢を県職員に導いたのは、昨年3月の東日本大震災でした。連日テレビを通じ、石巻や南三陸など被災地で奮闘する宮城県職員の姿を見て「自分も復興の力になりたい」と強く思ったそうです。

県職員になりたいと思うようになってから、家ではテレビのニュースを注意深く見るようになったといいます。特に村井嘉浩知事が出ていると「とてもがんばっている」と感心するそうです。「何でもいから復興を手伝いたいんです」という隼太さんの目に、希望の光が見えました。

東和中 1年  
(広報とめ2012.7.1号から)



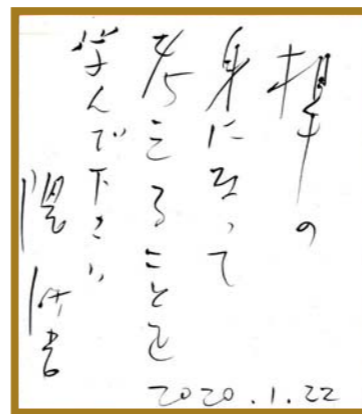
現在は、尚絅学院大学に通っています。小学5年生の時に東日本大震災を経験し、復興を手助けしたいという気持ちが芽生えました。今は、警察官を目指しています。警察官になれば、復興の手助けはもちろん、いずれは登米市で働き、地域に恩返しできればと思っています。夢をかなえるため、勉強などを計画的にやっていきたいです。  
20歳を迎え、大人として自分の行動には責任を持つという自覚が生まれてきました。また、20年間育ててくれた親には感謝しかありません。今までは、自分のことだけで精一杯でしたが、これからは、親孝行をしたいと考えています。まずは大学を卒業し、社会人として一人前になって安心させてあげたいです。



とめふるさと大使 隈研吾氏から

新成人へのメッセージ  
Message

Photo©J.C. Carbonne



登米町の森舞台や新国立競技場の設計に携わった隈研吾氏が、2019年9月、本市初となる「とめふるさと大使」に就任しました。隈氏から、新成人に向けてのメッセージ入り色紙が贈られましたので紹介します。色紙には、「相手の身になって考えることを学んで下さい」とエールが書かれています。

新成人の皆さん  
成人おめでとうございます

皆さんは、20歳の節目「成人式」を迎え、令和とともに大人として歩み出しました。社会人として、すでに歩んでいる人、夢に向かって、今まさに頑張っている人、将来に悩んでいる人など、さまざまな状況に置かれています。迷ったときは、まず過去を見つめ、次に未来を見つめ、そして現状を見つめることで、今やるべきことが見えてきます。

この先、皆さんが進む道には、大きな困難や壁が立ちますが、大きすぎることはありません。自分の力だけでは乗り切れないこともあると思いますが、そんな時は、一人で悩まず、家族や友人に相談することも大切です。きっと力になってくれるはずです。

今年成人を迎えた815人の目の前には無限の可能性が広がっています。皆さんが今後、ふるさと「登米市」の誇りを胸に活躍してくれることを心より願っています。